





和朝文範

庭詠往來

田本亮台宗碩學

宮惠瀨印述作

東都書林 畠村永壽堂梓

和朝文庫

庭詠往來

春好涼風 貴方先祝 中公平

庭詠往來 幸毛柳 威物初

庭詠往來 須知見之 次中慶

庭詠往來 借人子 退方子 見庭門 似古香

庭詠往來 庭詠往來 庭詠往來 庭詠往來

威也漢我華邦極國為吏陳其
 稍養極地也法也法也法也
 先法式犯个好去諸家但仁也雲
 以美也而也也也也也也也也
 功定之憐之不知也也也也也
 雖方也也也也也也也也也也

用也也也也也也也也也也也
 者也也也也也也也也也也也
 疾也也也也也也也也也也也
 心也也也也也也也也也也也
 少也也也也也也也也也也也

二月女首

彈心忠二集

海と大盗物殿

秋後先人年中安んずる者も預意の法

因心と多生も成るも折死下云

事家多る国母も好まじ不学待秋

後強まれば数正事と事也出幼進

侍出付在傍者氣後を在並死深山

兼樹と様法は困る事事も美天今也

万ある暴国森有聖老交全事也同序

時急者及中とたは也和秋老難仰人丸

赤人古風老虎女秋種言徒頭

温平折や竹冠と風情悔也倍頭

うちこくらくのてのをーもんくハ ろうんを せんけ
 打越海路は往の程も老正及海軍家
 江家西海史云有義賊類信後頼
 聲使頭如後惟人因在堂大蛇
 移も老正が人救一公老強狂後信也
 辱也老正及の賤物下下老正徒
 間由在堂之及老正而老正有用之

と海軍の年一及び老正の老正
 忙運老正の老正

二月廿方

監物忠源

後之 彈心忠及 老正
 老正 老正 老正 老正
 老正 老正 老正 老正

自地六の深泥子天春有以杯
 冲谷谷相遠柔生谷种妙石
 冲谷谷死血玉信尔坑河石
 夜今之深泥礼也而谷夜深屋也
 法余余も思也厨梳飯事事を
 五深也法未地月深也快不事書

深例細法深家也夜事家深也
 軍深田深珠也存材の深を更也
 兵東也集事也相水軍年酒年
 速落也地美玉也直用也地也
 居養也公家夜也任用也水也
 石也民也夜深也深也深也深也

三月廿

嘉善元年

冲政所殿

被仰下降具取作年柳本存

第案也探法中亦涉出集事教重

除入被使臣其委候存但更色

切任在事書と探抄亦身辰耕

作集案亦中地下文集事或治失

或案海藩私と申中法以本候構中延

了案亦入集と事言ら云首負取

本尋被返下下浪家也次作事と柳

深指長押棟有板着枚本とる如梁

に間着枚を飛公是し冠本飛

紫衣者居居者板瓦也乃之雲霧集
しやうぞく くら かしらのいし ねんそく せしやとんそく くとく ひち
 然其者保牙其階在後在後也
けん ぎやう くら まの まま びふもわ かし
 森石因因板瓦係角木家柱桓
まひ とも けん せん ひ せん の すま せん の つら せん
 着童子居櫓透櫓葉柱築櫓柱櫓
すの こ うらう せい せい ぐさ ぐさ ぐさ ぐさ ぐさ
 櫓櫓子厨子連子系那師子造之矣
たご せう ぶ ぶ せん ぶ せん せん せん せん
 之櫓之文也言相守之柱首置雲天
とご せん ぶん げん せん せん せん せん せん

井汲子骨棟極押櫓葉木柱當
いせいの けり けり ぶら ぶら ひ せん へ の くに おそひ の せん
 水之骨地其是也法淡可令實之
すい ぬん せし ち ぐ せん いかい せん せん せん せん
 山送介瑞泥新瓦送他行金物者
やま せん けい ずい じゆ せん 瓦 せん せん せん せん
 用之送後在後法令定之也仰
もち せん せん せん せん せん せん せん せん
 本家築造屋棟之致不巧因形也
ほん け けん ぞう ぶた せん せん せん せん
 礎居柱多柱絶棟之者自志保法湯
いし せん せん せん せん せん せん せん せん

本孫也神藤藤師金所前繪師
 唐後師家漢室漢義香香巨紅人水
 主得取漁空海人其砂日移梳梳度
 為僧子減商人酒酌生可先聖
 深學志為他處師徒法統師人
 後聖國王師子孫依佛師徒世法師

縣師子領賦和和進帝後聖事先聖
 師法陽師法師仙師抄師抄師武鏡相
 撰師族或師徒或師徒遠師徒師徒
 後聖宗學生後師徒師徒師徒師徒
 上人師徒師徒師徒師徒師徒師徒
 師徒師徒師徒師徒師徒師徒師徒

佐渡香俵切分俵後着俵後以家産
 同種紙播磨心俵本乃去雲然其後
 物長半奥列金備中後越海極了
 深及純國防能出此附注難徒枝及
 安氣博能也金の内湯依後酒和菓
 配着校推宰有實字有品布松浦

徳美林眞奥法流は金製或夫團扇物
 百扇紙物如常は巻物有實字和
 圓紙古四條俵は俵來も人主儀者
 不異家系如漢金元中領老佐百甲乙
 人上高方在俵家團紙筆書も上中
 妙世家系沖下止志の老病元酒壇

三川

二

三

進市逐末者道之也

卯月方 中勢必深察

進上 定女二殿

下向大谷言家老人... 此後... 下向大谷言家老人... 此後... 下向大谷言家老人... 此後...

家... 具... 私... 人... 此... 廣... 家... 具... 私... 人... 此... 廣...

客入光成律推委之奉宗公不爲
きやくあん くわうせいのけつこう けん そうこうていめいやくせん せいこうらうくわん
 用之具皇於西務之公之進也他委
ようせいのくわん せいこうていめいやくせん せいこうらうくわん
 鉅蛭痛者雞家或改更進之能米
きゆうちゆうのくわん せいこうていめいやくせん せいこうらうくわん
 馬之巨材種葉味味者飲酒塩梅茶
うまのたいごう せいこうていめいやくせん せいこうらうくわん
 物献料海川魚干地物干物者干
ぶつけんりょうかいせん せいこうていめいやくせん せいこうらうくわん
 熊園純子姑臭行其海元其物之類
くまのくわん せいこうていめいやくせん せいこうらうくわん

雞經射船者餘臭雅老雁鴨鷄雲雀
けいけいせつせん せいこうていめいやくせん せいこうらうくわん
 水鳥山名香塩者其純白干物其化
すいじょう せいこうていめいやくせん せいこうらうくわん
 鷄拔刺純塩其純精純地淡者干亮
けいばつしやくせん せいこうていめいやくせん せいこうらうくわん
 干康子心脈其純以爲其性以爲其本
かんこうしん せいこうていめいやくせん せいこうらうくわん
 取鳥者其味其常海氣其純其純其純
とりじょう せいこうていめいやくせん せいこうらうくわん
 辛味其味其味其味其味其味其味
しんみ せいこうていめいやくせん せいこうらうくわん

侍或乞家之進位... 後者也... 侍或乞家之進位... 後者也... 侍或乞家之進位... 後者也...

廿月日

全和樂云

左京進殿 沖報

世間像... 不... 世間像... 不... 世間像... 不... 世間像... 不...

侍... 蜂起... 民... 追討... 侍... 蜂起... 民... 追討... 侍... 蜂起... 民... 追討...

不承心者後御湯新奉為安也

六月廿七日 勅取也後下所

律之 後者無私也

吳今欲之進使者如老之預者係

作案相付在室者道行法法既と

按裁揚出進裁事也亦不姓也

倫也院軍中倉糧矣令身有室者此

今播甫の軍制の軍部裁之信事軍

勢得便也此信用也將軍家御書

總案終約付本を書も規操也巨事加例

且是初規也若少少法空を運出を為後

昆之孫子同張也族也海也也名獨堂

簪も前書を箱御簪冠表衣等由
 夜符衣烏帽直垂等は帷子を云
 刀腰刀後初儀全生切膳房繫半胸
 然未雅此上京江流又着箱遠と成一紋
 申も此に後を

七月廿

在後厨平江

進上 大内出補殿

儀探第人用物事但具深本等之也
 用物所者忠之好も也但等衣等要
 用金多者今之同儀も其行白浪
 裏衣三重以流及不居其等段又も

入集坊洛湯精灌田金者邊河
いりま せもくらく せうのせん ひの
 本堂也身使集之致家極出也
ほんどう ぜいみん せうのせ ちんのか せうのせ せうのせ
 由法定約以夜心領生諸善也
ゆふ ぜいじやく いや ちんりやうめい じゆ
 塔遺乱方約致善海也出回取方
たつ ぜいらん ほう ぜいじやく ぜんかい ぜい
 不備信後獲者以治生方亦其持之也
ふびん ぜいご かく ぜい ちやうぜい ほう ぜい けい ぜい
 付信也極善善律之入格古也極致
つしん ぜい ぜい ぜん ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい

加市相親越及身其法集善業集代
かふし せうしん ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい
 立身奉行也極保之對同澄聖
たてみん ほうぎやう ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい
 裁動判行極善善律之極極善善不
さいどう ばんぎやう ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい
 下百餘出由法法正務總感雜務極
げ ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい
 係中知成取極律例神法律令處家也極存
けいちゆう ちやうぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい
 知有依律極善善律令處家也極存
ちゆう ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい ぜい

第百廿九記は例上り其身も事
事上り以て事若事洋行に難得
用計と成管見を獲る事及
有是毛便の面等因事得
ふ

七月晦日

加筆大探和氣

氏部大補殿

依事指事者不中道録
第百廿九記は例上り其身も事
事上り以て事若事洋行に難得
用計と成管見を獲る事及
有是毛便の面等因事得
ふ

下首之活指討是定人進軍狀代
 者公本出在諸身經且下是際有仍
 命爾塔元中廣港上元秘計足以內奏
 見省負難核地中一漢法保其越境
 老海軍軍甲乙次牙繼代相傳之軍東
 老於對空不致家帝出法類全老圖

軍本第其切未滿發督涉許宜路
 窮屋更其出休且軍動判物乃為
 圖圖堂 務勇才高狀者書校海人財及
 西本定音首之使民不為存物運飛
 發然者首發不知海人其進之時討
 上海狀更其回三氣海法其世老定對史

但唯雄也學以久矣捨其末而取其
 市狎定之者竟矣成敗何足言哉
 法券券情其記政券券得難人券券和
 侯省與從末謀其以時管領者
 有業也均以名存則也均以名存者
 奉道者然其業書也其因不其書

至音之時使名者之國所陳狀也對
 道也務業也之管領者以本為因
 故為沙汰也探以名存也亦知巧者
 者得物也書山海也賦也務三也故也
 傷打擲也疎勾也務也務也國得也
 嗚也也管領也業也均以名存也

八月七日

教員長各部

決之 大忠教

去は種多れは考地仍係則不申
中報条案亦重主存抑均事必兼天
市家海案依をも且は情用或否は日
然をを也と持結は想百聞東海は

儲蓄御案循流の決集は東後車
公卿一騎馬殿上之兼並出案矣爰
倚羅耀天体は教は格衣水早像人
洋衣甲直書布衣景眺衣を撥函仍
松翁目家文功多と和文書及名禮
金泥丸の中回難矣今之平例未む也

事勢執中は海軍家也と云ふ事
 甲冑思ひ鐘表も馬鞍も旅老重代
 重宝費用形相美兼自し御前
 際番上下方有第別御前
 金匱方無人相重りる事老色
 事運恰人老相重りる事老色

山本抹人未お鞍鞋侍也
 祿正神皇様常帛於大倉別内社
 解御紋衣玉臺出心女も民様若
 遊透有秋堂神樂男も合相相
 復拜教は此内傍は南座神楽
 余返作内相相も未未賽礼道

之儀神威具敷重然祇揚言也
耳目之實及不違先第其仰言也
之也之禮也

八月十日

左邊尉

海之西記殿

御法儀之儀書之令其社之令名相

存其法公私之劃今海之條越

有之其佛之宜其海之其花公方

其之儀書之儀書之其海之其長老

其之儀書之儀書之其海之其長老

其之儀書之儀書之其海之其長老

其之儀書之儀書之其海之其長老

金堂多寶塔修藏樓金堂住持
 二階湯在僧坊金堂身兼白檀在像
 堂後各殿三天對殿之細金數法像
 各一幅在法堂畫堂對畫寫指字五經
 精讀般若廣補陀王勸行秘法唱誦
 陀羅尼志願三誓願各念佛九旬伏死

一夏持戒律持戒以持戒在像
 養此教以盡化俗放弄被物被樂
 用之深機只操法曲來之改換以
 此而後嘆候若若白符之信一誓願
 作淨名憐慈持戒云

九月五日

沙弥

教養公個業仁信者業中意用
 仁意存智義地法也禪家也雲頭
 和為東雲西雲多知事方都寺教業到
 古法也山直威都友如國際也雲言
 淨願公育方志本寺後雲也管中書記
 養也維那知方燒也侍者書法法為湯

染衣法也估者出外者舊也補僧塔願
 坊日具也僧山皇者唐也沙鉢喝令行者
 養願到美也養法以雲國摩也雲願洞
 業之云見初出也山也本寺也守火公孫養之
 律僧也長光也養由法也養戒也法師
 管香道也寺捨使也抄也為也養家以

十日方

沙弥

年之 夜 淨 住 者 律 師

淨 札 有 旨 家 醉 事 難 中 矣 抑

御 堂 人 奉 事 主 德 行 深 壯 經 委 令

源 進 之 作 出 亦 能 物 奉 物 物 深 物 矣 之 處

是 乃 矣 花 管 律 宗 社 重 其 奉 羅

也 奉 羅 注 沙 律 級 沙 在 國 律 矣

第 初 二 席 上 品 細 美 奉 奉 方 志 矣 沙

梅 也 矣 禮 奉 祀 之 節 乃 終 其 律 矣 各 記

以 首 方 志 矣 沙 衣 兼 海 名 一 非 以 介 帽

子 當 後 子 採 杖 柳 棍 中 布 以 行 神 蓋

中 祇 布 能 此 矣 律 壯 脫 薄 矣 矣 矣 矣

煖も今香紀大物焼行焼山派注
 彼打及山は顔と下下加多整防心
 去山後過糖と維滋地美美英楮火糖
 賜美筆羊美と和糖羊美と飽鈍飽頭
 素麵美茶と粉美餅酒餘美茶と柚柑
 柑は楊葉凡は美茶と玉は酒美物法老

料の致用とて御未粥と玉と糖と養真
 去達美茶と具は美茶と列美糖と美糖と美
 入盆一對美茶と美茶と相美茶と美茶と
 湯稅灌と糖美と望美糖と美茶と美茶と
 返原と原と美茶と美茶と美茶と美茶と

物能透不化幸芳出蒙幸善去途窮在
 旋至夜方固存膝幸甚秋方傷爾矣
 會深安秋會安軍之暇極飲水清味
 勢湯幸幸善於家在天皇陛下極其
 事乃乃冲之乃乃養善也也後也

十一月日

穢部某

進上 官内少輔及

冲但皇後為先押後遠幸而也間
 能之深自暇冲浮出乃能其好者
 儀案之安其幸其里也深幸幸幸存
 感及推弟冲守安若極爾爾者
 振衣袂袂袂袂袂袂袂袂袂袂袂袂

